

8月の植物 ネムノキ(合歓の木) 学名: *Albizia julibrissin* マメ科ネムノキ属

方言：コーカノキ、ネンネコノキ、ネブイノキ

暑い夏を象徴する淡紅色の花と、細かい整然とした複葉をなびかせる樹木です。佐賀県の山野に普通に見られ、マメ科植物の特徴である根粒菌を根につくるため、やせ地でもよく育ちます。川原や原野のようなところでポツンと1本だけ葉を茂らせているような光景もよく見かけます。葉は夜になると垂れ下がり、小葉が閉じます。眠っているように見えることから、就眠運動と呼ばれます。

ネムノキの花は特徴的ですが、このボンボン（画像の**赤丸**）がひとつの花ではなく、10~20個程度の花が集まった状態です。ピンク色をした細い糸状のものは雄しべなの

ですが、この雄しべが下半分で合着して途中から放射状にバラけているものは頂生花（**青矢印**）と呼ばれます。それ以外のものは側生花と呼ばれます。ピンク色の糸が雄しべであれば、花弁はどこにあるのでしょうか？

雄しべの根元で筒状になっているもの（**緑矢印**）が花弁です。頂生花と側生花の役割の違いはよく分かりませんが、頂生花にのみ蜜があるのだそうです。



2016. 7. 10 唐津市七山白木

